

## 経済団体連合会第四十一回総会における挨拶（要旨）

（昭和五十五年五月二十三日 経団連会館）

わが国の経済は、生産、輸出、投資ともきわめて堅調な足どりを辿り、順調な拡大を遂げている。昨年暮の原油の値上げ、円安の進行等から懸念されていた物価も、四月、五月を山としてようやく沈静の方向にある。これは、ひとえに各位の努力のおかげであり、感謝にたえない。

先般、内閣の物価安定政策会議において、今日の経済パフォーマンスが、国の内外において比較的高い評価をうけているが、それは、第一に企業努力、第二に消費者の賢明な判断、第三に日銀のタイムリーな金融政策の実行によるものであり、政府の政策による貢献度は低いという意見が出された。

政府としても、重要資源の確保に努力する一方、物価安定に当たっては、市場メカニズムを活用すること、行政の介入を極力避けてきた。また、節度ある財政運営のため、財政再建に取り組んでいるが、まだ初期の段階であり、これからが正念場であると考えている。

諸々の問題について各界各層の努力によって、諸外国に比してすぐれたパフォーマンスを達成し得たことは、お互いに誇るべきことである。

先般、私は、アメリカ、メキシコ、カナダ、西ドイツを歴訪してきたが、これら友邦諸国においても、わが国の経済運営に対する評価はきわめて高いものがあつた。同時に、わが国が世界経済の運営に当たり

負っている責任の重さ、わが国に対する期待の大きさを痛感した。土光会長のお話にもあったように、わが国には、世界経済の自由な拡大のためのルールを、率先して守らなければならないという責任が課せられている。

世界第二の裾野をもった経済大国に躍進したわが国は、揺るぎない自信をもって難局に対処し、わが国として果たすべき責任を果たし、遂行すべき役割は完遂していかなければならない。経済界のより一層の努力を期待するとともに、政府としても、心を戒めて経済運営に当たっていく所存である。

今回、内外の重大な危局にもかかわらず、予想外の政局の転換を強いられる結果となった。内閣不信任決議案の提出者も予期せざるように、不信任案が可決成立したことは残念であり、さらに、自民党内部に本会議採決の際欠席した者がいたことは、われわれとしても心を痛めている。

しかし、不信任案が成立した以上、選択すべき道は、総辞職が解散かの二つしかない。総辞職を行った場合、第二党である社会党が選挙管理内閣をつくり、解散を行うという手順となり、私としては、これは混迷を一層深めるだけであるという危惧を抱いたわけである。もう一つの選択は、解散を断行して政局を立て直しを敢行することである。

私は躊躇なく後者を選んだが、それ以外に選択の道がなかったことを理解していただきたい。今回の衆参両院同時選挙は、国民の負担をできるだけ軽減するためにとつた方法である。

早急に選挙の洗礼を受け、政局の安定を図り、内外の危局に備えなければならぬと決意している次第である。

ところで、経団連の会長として六年間、財界を指導なされてきた土光会長が、このたび、稲山氏と交替なさると承っている。土光氏は、六年間、高邁なる見識、そして清廉なる姿勢をもってわれわれを指導されてきた。ひじょうに残念ではあるが、承るところによると、まだ二百もの要職におられ、壮者を凌ぐエネルギーの持ち主でいらっしゃる。これから、一層ご自愛の上、われわれ後進を指導していただくように祈念申し上げる次第である。

稲山新会長は、すでに定評のある財界指導者であり、われわれは、かねてより敬慕している。稲山新会長の指導のもとで、世界にそのパフォーマンスを高く評価されている財界が、難局に対してみことな成果を達成されるよう、心から祈念して止まない。